雑　報

新彗星 Huchra (1973 h) の発見

ヘール天文台のフッチュラ (Dr. M. Huchra) は，パロマー天文台の 122 cm シュミット・カメラで4月24日 (U. T.) に写した乾板上で次の位置に新彗星を発見し，同天文台のグリーン (R. Green) により5月3日 (U. T.) に確認された．

1973 U. T	α (1950.0)	δ	m_1	観測者
4月24.34	$14^h36^m.5$	$+33°23'$	13	Huchra
5月 3.28	14 27	+31.4	14	Green

その後の観測から次のような放物線の初期軌道要素が求められている．

T=1973年3月12.34 (E. T.)　ω=123°.98, Ω= 56.78, i= 48.77 (1950.0)

q=2.4029 A. U.

近日点通過後の発見であるため，光度は次第に暗くなり観測の数も少なく上記の要素の精度はあまり高くない．

(香西洋樹)

Kohoutek 彗星 (1973 f) の予報

コホーテク彗星 (1973 f) は5月でもって，見かけ上太陽に近くなり我々の視野から遠ざかってしまったが，1973年9月には太陽からの離角も次第に大きくなり，再び我々の視界にもどり明け方の空で観測可能になって来る．そこで読者の観測の便のためにこの時期における予報を下に記す．長期の観測を基にした予報ではないので多少の誤差はまぬがれないであろう．

1973年	α (195.0)	δ	太陽からの離角	光度 (m_1)
9月10日	9^h56^m	$+2°37'$	19°	12
20	10 11	+1 11	24	12
30	10 27	−0 28	29	11
10月10日	10 45	−2 23	34	10
20	11 05	−4 37	38	10
30	11 28	−7 16	42	9

(香西洋樹)

1973年1月～5月に発見された超新星・新星

1973年5月末までに，東京天文台宛に連絡のあった超新星・新星は次の通りである．毎年10～20個の超新星・新星が発見され，その内の超新星の大半はヘール天文台の超新星捜索の特別プログラムによる，F. Zwicky, C. T. Kowal の発見であってその光度は 15～17 等である．また残りはイタリヤの L. Rosino，スイスの P. Wild，西ドイツの L. Kohoutek 等による発見である．

N.G.C.	α (1950.0)	δ	U. T.	光度
——	$15^h12^m.7$	$+2°55'$	1月12日	16.5 (mv)
			1月30日	15 (mv)
			発見者	C. T. Kowal
3656	11 20.8	+54 7	1月11日	17.0 (pv)
			発見者	T. T. Kowal
4944	13 01.5	+28 28	3月31日	17.0 (pv)
			発見者	L. Kohoutek
——	12 54.5	− 4 45	4月 6日	16.4 (pg)
			発見者	F. Zwicky
4939	13 01.7	−10 05	5月21日	16 (mv)
			発見者	P. Wild

なを上記の内 N. G. C. 3656 には 1963年6月[16]日に 15.0 等の超新星が出現している．

この他 G. K. Per (1901 Per) として知られる新星の増光（天文月報 1973年3月号雑報参照）がある．

(香西洋樹)

赤方偏移 3.4 の QSO

米国スチュアード天文台のカーズウェル等はオハイオカタログの OH 471 という電波源 (QSO と同定されている) の赤方偏移が 3.4 であることを見出した．(Nature 1973年4月3日号，一部には新聞でも報じられた)

カーズウェル等は，同天文台の90吋望遠鏡のカセグレイン焦点にイメージチューブ付の分光器をつけてスペクトルを撮った．二本の強い輝線が 4548 オングストロームと 5351 オングストロームにあらわれた．この波長の比 (1.177) はちょうど五回電離の酸素の線 (OVI λ 1033.8) とライマンアルファの比に一致している．この同定が正しいとすれば上記の赤方偏移となるわけである．

同定の正しいことは，この二本の線が他のスペクトル線とするとうまく辻褄が合わなくなること，他に見えているうすい輝線もうまく説明できること，吸収線も説明できそうなことなどから著者たちはかなりの自信を持っている様である．

赤方偏移としては，電波源 4C 5.34 が 2.88 という値を持っており，その記録を大幅に破るもので膨張宇宙，QSO などの研究に非常に重要な発見である．